

会議議事要旨

件名	令和6年度渡島総合振興局道営農業農村整備事業等環境情報協議会
月日	令和6年8月29日(木) 13:30~16:00
場所	渡島総合振興局 2階 200会議室 北斗市北斗中央地区、渡島北部地区現地
出席者	別紙「令和6年度渡島総合振興局道営農業農村整備事業等環境情報協議会出席者名簿」のとおり
資料	協議会次第、出席者名簿、協議会座席表、協議会開催要領、田園環境整備マスタープラン、対象地区一覧表、令和7年度新規採択希望地区資料
内容	<p>○協議会開催趣旨の説明</p> <p>○市町村田園環境整備マスタープランの概要説明</p> <p>○事業計画地区の概要説明</p> <p>○意見交換</p> <p><農村整備事業（農道・集落道整備事業 高度化型） 熱田地区 意見・質疑等></p> <p>会 (森隆志委員) 本路線には歩道はつかないのでしょうか。</p> <p>(渡島総合振興局) 議 歩道つける場合には基準があり、「学校が近くにあり、学童40人以上が利用する」と定められています。本路線にある農家は2戸なので、その基準には満たないということで、今回は歩道をつける予定はないです。</p> <p>内 (伍楼委員) 現状の幅員から工事後はどれくらい広がるのでしょうか。</p> <p>(渡島総合振興局) 容 車道幅員4m造成幅員6mと幅が広がります。</p> <p>(森淳委員) マスタープランの環境創造地域と環境配慮地域を明確に分けておいた方がいいのではないのでしょうか。各市町村の創造地域も合わせて資料に表記していただけるとイメ</p>

ージがわきやすいと思います。

(渡島総合振興局)

来年度にむけて、環境創造区域と環境配慮区域のゾーニングを明確する形をとっていきたいと思います。

(森淳委員)

アスファルト舗装の表層は、最低3cmですか。

(渡島総合振興局)

北海道の設計基準では雪の多さで地域分けをしまして、八雲町では3cmで整理しています。

(菊池委員)

本地区では、大型車の往来があるため待避所を設けているようですが、整備後は改善されますか。

(渡島総合振興局)

200メートルごとに待避所をつける予定です。

(森淳委員)

新幹線の工事で新たに発生した事業費なのでアロケーションにあたるのではないですか。

(渡島総合振興局)

待避場は工事完了までに撤去されるため、事業計画上構造物としては考慮されていないので、アロケーションにはならないです。

<農村地域防災減災事業 (防災ダム整備事業) 濁川地区 意見・質疑等>

(森委員)

アンカーキャップが破損しているとのことですが、アンカー自体の安全性の強化は問題ないですか。

(渡島総合振興局)

問題ありません。

(菊池委員)

ダムのコンピューターの更新は何年に一度くらい更新されるものですか。

(渡島総合振興局)

国の基準では一般的なパソコンで5年程度とされていますが、ダム用パソコンはそれ以上もつことが多いです。メーカーに在庫がある限りは部品の更新はできます。このダムのように古くなってくると、部品もなくなってしまうので、コンピュータ全体の更新を定期的に行っていく必要があります。

<水利施設等整備事業(畑地帯総合整備) 北斗中央地区

意見・質疑等>

(菊池委員)

図面をみると、北側の方が2件離れたところ受益地にありますが、こちらもぶどうの農地ですか。

(北斗市)

北側2カ所の真四角のほ場がぶどうで、尖っているほ場が長ネギ作物を計画されているところです。

(菊池委員)

エリアが離れているのはなぜですか。

(北斗市)

このエリアの農家さんに事業の案内をしたところ、最終的に要望があがってきたところが今回の地区になっています。

(森淳委員)

本地区の地区設定の考え方を教えてください。

(渡島総合振興局)

今回は、営農上一体的な文月・向野集落エリアで設定しています。

(市橋委員)

ぶどうのほ場はどのような工事をするのですか。

(渡島総合振興局)

ほ場を囲うような形で1m程度の暗渠排水を入れ、外部からの水を遮断する承水路という整備を考えております。

(森淳委員)

構造はどうなっていますか。

(渡島総合振興局)

1 m位の深さにして、管と疎水材を入れます。これは近傍地区の桔梗高台で調査をして、排水として有効であるという結果が出ています。

<農地中間管理機構関連農地整備事業 渡島北部地区

意見・質疑等>

(森淳委員)

これから農村地域では高齢化が進み、担い手が少なくなったため農地集積対策をすすめる一方で、農地を管理できず、耕作放棄地が増えて、今や滋賀県の面積と同じくらいの面積となっています。特に北海道の場合は一戸あたりの面積が大きい中で、離農進むことで、農地が荒廃し、生態系が遷移し、食料生産率が落ち、そのインパクトは他県と比べるとより大きなものと思われま。

北海道も様々な担い手や集積に係る施策を進めているところですが、見通しとして実際にどのくらいで現状が保てるのか、試算はありますか。本州では集積の限界の声も上がっているが、北海道の実情を教えてください。

(渡島総合振興局)

中央農業試験場が10年後の北海道の労働力の予測値を出していますが、実際のところ予測値より5~6年労働力の減少が進んでいる印象があります。労働力の減少が著しい中、今のほ場をどう維持していくかを各地域で考える必要があります。ただそこでネックになるのは事業費の農家負担額で、整備要望はあるけれど、資材・人件費等の高騰により農家の負担額が大きく事業に踏み込めないのが実態です。渡島北部地区は農家の負担がない事業ですが、負担がない分、事業達成要件もハードルが高く、なかなか要件を満たすのに苦慮している状況です。

担い手が減少する地域ではICTの技術を取り入れて、人がいなくてもできるように環境を整えることができますが、そうした環境を整備することができない地域もまだ沢山あり、担い手農家がいな中で農地をどう守っていくか考えていけないといけません。個人経営は法人化していくなど、経営形態を変えていく方向も考えていく過渡期の時期かと考えています。

(市橋委員)

違った切り口になりますが、農業高校も農家の子は非常に少なく、農家を継がない場合がほとんどです。一方、サラリーマン家庭で就農希望の子が少しずつ増えてきています。今年から農協の協力で、農業法人にインターンシップをお願いしています。農

業法人は受け入れがしっかりしているので、インターンを経て「もう少し実力をつけてから就職したい」と思う生徒も多く、ほとんどが農業を勉強するために大学進学を選択しています。また、北海道の特徴で、通年雇用してくれるところが非常に少ないため、親としてはあまり就職させたくない思いもあるし、高校卒業してすぐ新規就農の道を選ぶといのも、ハードルが高く、就農希望する子の受入体制がまだ十分ではないと感じます。就農希望の人は当然農業高校の生徒以外にもいると思うので、そういう人達をうまく取り入れていけるようなシステムがあるとよいと感じています。

(渡島総合振興局)

環境配慮対策には特段意見はありませんでした。田園環境マスタープランの環境創造区域と環境配慮区域の表記については、明確に表現していきたいと思います。